たいものである。 摩の投票に當つて曹 度こそ真面目に此の

貰のは

侵人突撃によつて大打

撃見られてゐる。

到つて、

さし

選令

である。 黨鎬を削っての

の大激戦

戦の今や正に 目の総選擧で を を

で

あ 翠迫 つて

0

3

必然的

つて

一日憲法第七條 四議會は去る一 はまる一 の表書をら

*tc*\*

新舊有權者諸君は斯う

に於ける

なる性を帯びてゐるのの危機に面してゐる我都君の淸き-票には此

はの戦をして財政經濟 北の戦をして財政經濟 北の戦をして財政經濟 大が國を前途ある展開 である展開 である。

普通

一の武器は言論

戦と文書戦に

依るより外に

なく

各候補

者共秘術をつく

してゐ

E

士

比

情を受けてゐた結果か

Z

して

r<del>i</del>s

も政友會の木村氏

平氏は軍用金の最も不足な各方

面か

らぞく

同

情金

おで

定價 三回七、十七、一 ヶ 月部 所指定十 =+ +, 干錢增 鏠錢

も植田町

集まる始末で

ある過日等 から手

此

佐氏

に添へて一金二圓也を送つ

寄こした程で其他各方面

があるかの如

の辯論部は一番人數が

多い

んと云つても比佐昌

早氏

况

隊を三班に別ち一班を九名

IJ

英 伙 郎

行所福島縣平 印編發 人 朝新 Ti 海町 井 岸新 報一 計

演説會のポスター

等も他の

く見受けられ

候補者は大底一色刷の中に

多い割に候補者が顔を見せ

にし には 製の

そして到る所で大もて 七名と云ふ辯士である。 で候補者迄十名、合計二十

にも

本城を有し名乗りを上げたあつたが、其後相馬原町に あつたが、其後相馬原町にるから、投票日迄には又変である。極最近迄はすこぶる優勢で氏に對する深い同情とがあされ飯食る暇さへ無い有樣 其後隨所に於て善戰し來り として打つて出た木村氏 同系統公本孫右衛門氏 政友派の公認候 を股に は 補 あるが、 の優勢さを示すものく 四倉方面の强固なる地盤とちにもこつちにもと引廻 勢力を挽回して舊勢力以上 危機に追れてゐるとの噂で も優勢なり 何と し木村氏も今や 云ふても平町 行は 奮 3

の人 一農村 味方

た、磐城青年同盟は今や悲木村氏の遊説隊は一班二班 政友會公認候補木村清治氏 猛烈に各所に演説声を開き 壯なる覺悟の元により一層| 先に言論を唯一の武器とし 大言論戰を開始してゐる。 猛烈なる應援をなして水東西南北に奔走してゐる。 戦況不利と傳へらるくや 花華し の選擧戰は背腹に敵を有 と分ち尚外に第三者として 各辯士共汗だくになつて、 い言論戰を行ひつく 0)

圖品画 3

民政黨公認候補として名乗候補者として、 ス ダ 3 世間 U から深 1

相當特票があるであらうと 力の限り 任を管波角之助氏に一任し るから、一日平均三ヶ所位 の青年回盟會の演説會があ 一方運動員を極力暗中飛躍 續いて、文書戰、言論戰に てポスター 町白銀町に事務所を設け主 友公認松本孫右衛門氏は平面迄戰線をのばして來た政 石城を喰る込ん 相、双、地方より石域の方 形であるから當地方より れるので木村氏はあつ を盡してゐる。 戦に皮切をなし 72 15 がさて、 運命は決定される筈である と傳へられてゐる。 世人から注意の的となつて 勞黨の動き様一つで當落の の貧乏でもなさそうだとも 辯士の名と會場とは墨で記 刷つてゐると云ふ様な始末ないので一部の選舉民 入してゐるのに比佐氏のはて、ゐるが其の演說會 りは辯士から會場迄全部 世間で同情してゐる程餘り熱の無い所もなき

本勞農黨は黨員二千五百名 黨の行動を冷視してゐた。日 れクスグッタイ氣持で他政 目を以て見られ既成政黨に於て演說會を開き辯 應援辯士各所 色目を使わ から興味 一清一氏外數名の獅子吼 言論戰に入り先づ宮小 佐川候補小山祐五郎氏 を描述 入場者實に約千五百 盛會裡に閉會したo 雄 14 Ţĵ があ 學校 て真か偽か? 同情者が多いようだ

會の上當三區より立候補せ 催三十數名の執行委員が参毒な程にやつれてゐる 部樓上にて執行委員會を開 るたが去る十一日堂之前支職を演であるが木村氏等は「比佐さんのボスターは一番」でもらいたい世人から注意の的となつで「今や各候補共大量になつで」 者中最も無産黨に近 何所行くかと可 此の日 あの日頃の元氣な顔も氣の景氣がいくようだ の言論戦で右に左にかけ つてゐるが氏は生來極く真 真剣な から、樂觀 内の人で 711 毎日種類も大分ある 横山之だつたら は許 廻演説會のビラ辯士の名も會 あ 場も全部色刷だ だが割合に人が少ない 人ばかり たら如何でせう 松本さんが、こつちの方に 一階には × × 何時もドイライ ×

革新團を設けて選擧の浮化

其の意味でか日勞黨で選擧

運動をしてをる大いにやつ

上のよりに 年期迄相當手當を支給す 1. 原境

希望者は本人及び親族來談の事) 倉活版 電話(呼)四倉五三番

| 余かこ・「・」 | 木村さんに双葉の方を収ら|| 木村さんに双葉の方を収ら 餘りにも有名だ

ではなからうと言れ 兎に角言論戰では不利

だが此の貧乏たるやだ果し自分の黨派の地盤協定も出 寄付がある始末で可成りの 町某藝妓からなんかも × × 77 つて行きたいど思つて…」 來すして中立候補をマタグ | んだ……ツノ少しばかり貰 に平町事務所の主任管波某 何にか品物を貰つて行く様 『ナー澤山とは言わない

士は一者し此れが選擧中のみの貧ラ膏薬とは、 |又は選舉作戰上の貧乏だつ|運動員曰く鑑札があつては 木村政友會候補者の事務所徹底してもらいたい ばしてをる少し普選の意を 自由な運動が出來ないとこ × ×

四五日で運命がきまるよべ 氣の毒の至りです 名の内三名は落選するとは 死物狂に奔走しても余す所

四疊半とは臭いぞり 立看板をたのむのに主人と

迄手を延ばして來た